

対談

鎮守の杜コンサートを開催

－神社は感謝を再認識する場－



歌 手

原 田 真 二

栃木県神社庁長

吉 田 健 彦

一、はじめに

庁長 原田さんには、大変お忙しいなか、本日の対談に快くご承諾いただきまして、心より感謝申し上げます。当栃木県神社庁では教化広報活動の一環として、毎年対談を企画しまして、その内容は「下野の杜」という機関紙に掲載しております。

原田さんの近年の芸能活動で、全国各地での神社を会場とした「鎮守の杜コンサート」の開催や、地球環境問題などへの取り組みなど、我々が取り組んでいる事とも共通するところがありますので、その辺を中心にお尋ねをさせていただければと思います。また、昨年は音楽評論家の「湯川れい子」さんと「音楽を通しての神社と癒し」というテーマで同じく対談をさせていただきましたが、湯川さんからも原田さんが数年

前から、一生懸命に鎮守の森の活性化を提唱していらっしゃるという話がありましたので、是非とも直にお話が出来ればと思いました。どうぞよろしくお願い致します。

はじめに、ご出身や生いたち、音楽に興味をもたれた動機などについてお話いただけたら幸いです。

二、生いたち、

音楽への興味

原田 僕自身は広島市出身、両親は山口県出身です。山口県、広島県辺りでは、祖父祖母の代にアメリカ西海岸に移り住む人たちが多く、開拓精神が旺盛な地であるようです。我が家も、親戚がシアトルにあり、小さい頃からアメリカ等の広島以外の文化に触れる機会が多かったです。同時に広島で育ったということで、小学校の頃から「世界平和」へ

原 田 真 二

Shinji Harada

● 出 身 地 広島県広島市

● デビュー以前

昭和45年12歳の時、テレビの衛星中継エルビス・プレスリーのコンサートに釘付けとなり、ミュージシャンを目標とする。昭和51年フォーライフレコードのオーディションに自作の曲で応募、約三千曲の中から一位で選曲される。

● デビュー後

昭和52年大学入学にて上京と同時にデビュー、同年10月「ていんずぶるーす」、11月「キャンディ」、12月「シャドーボクサー」と三ヶ月連続でシングルレコードを発売、三曲ともベストテン入りし、前代未聞のデビューとなる。翌年にはデビューアルバムを発売、初登場一位となり数週間連続トップを独走する。現在までに五十枚のシングル・アルバムを発売する。

● 現在の活動

八王子市立下柚木小学校校歌を作詞作曲、環境庁を始め特殊法人主催の環境チャリティーコンサートに出演する。平成12年より、森作りのためのチャリティーコンサート「鎮守の杜コンサート」を開催、明治神宮・伊勢神宮・厳島神社を含む全国八ヶ所の神社でコンサートを開催する。

の考え方は、当たり前のように自分の中で育っていきました。音楽は子供の頃から大変興味があり、中学の頃から徐々に自分の中でイメージが広がっていったと思います。特に、テレビで衛星中継されたハワイでのエルビス・プレスリーのコンサートの様子に衝撃を受け、子供ながらにコン

サートってすごいんだと思いましたね。丁度、日本では「吉田拓郎」さんなどのフォークブームのところで、僕もその頃にギターに興味をもちましたが、実際弾いていたのは、殆ど洋楽ばかりでした。エルトン・ジョンなどにも非常に興味を持ち、彼の影響を受けてオリジナルの曲を作り始めたのも

この時期です。ただ、僕が当時作っていた曲は、何を歌って何を伝えたいのか、この時代の流行の曲とは外れて、メッセージ性の強いものに限られていたりしました。

三、デビュー後は

原田 デビューしたのは十八歳です。発売したシングルレコード三枚がラッキーなことに同時にベストテン入りしたりとレコード業界での記録を打ち立て、また非常にアイドル的な見方もしていただくような華々しいデビューになりました。

広島で生まれた事もあり、中学・高校の頃から精神的な事にも興味がありましたし、発表する曲が人間の人生に関わるような、子供がそんな事を言うとおかしいんですが、自分が得てきた知識の中から、そういう事を考えなけ

ればいけないんだ…といった感覚がありました。

当時は我々のようなロック系のアーティストが、テレビに出るというのもあまりありませんでした。アンダーグラウンド的な活動というか、コンサートが中心で…。

ですから、画期的ではありませんが、自らバンドを従えて登場するというのは、いろいろと設備の関係等で、テレビ業界の方とも度々トラブルになり、あいつらは「生意気」だと（笑）よく衝突したのも事実です。

ただ、今はその方々も偉くなられて、久しぶりにお会いしたりするとその頃の話に花が咲くというか、本当に懐かしいエピソードになっております。

斤長 その頃のアイドル時代は、だいぶご多忙だったのではないですか。

原田 そうですね。過密スケジュールとか、テレビというメディアに

違和感を持ちたりはしていましたが、自分では、ものをつくっていく、作品をクリエイティブしていく事が役目だと思っていました。勿論作品を出さなければ意味は無いんですが、それを作りだす時間が当時は無いわけです。自分がいかに素晴らしい作品を残せたかという事に、重きを置きたかったんです

が……。その後、アメリカに一年位行っていた時期もあり、地下活動（笑）というかマスコミにも登場しない時代に入りました。テレビ等を見てきた人達からは、一方的に辞めてしまったとか、様々な事を言われましたが、コンサートを中心とした活動に切り替え、二十八年目に入ることが出来ました。

こうして音楽活動を続けさせていただいている事に、感謝しております。

庁長 アメリカに行ったという事も、非常に後の音楽活動にも役

立っているのではと思われすが……。
原田 はい。本当に大きな財産だと思っています。

四、環境チャリティー コンサートの開催

庁長 環境チャリティコンサートを開催する動機となったのはどのようなことですか？

原田 音楽で何が出来たのかについていうこと。デビュー前から、人間が何事にもプラス思考で生きていく、そういうエネルギーを、音楽で伝えられたらということ、それを本当にやるのが自分の仕事なんだ、といった意識がたいへんありました。そういったことがテーマになった歌詞とか、元氣が出る曲を多くの人に聴いていただけたら、プラスのエネルギーが伝わるようなものになっていくと思っています。

また、先ほども申し上げました

が、以前から精神世界や日本神道にもたいへん興味があつて、色々と勉強もしました。自分の中で色々な思いもありますので、本を読んだり、精神世界の何が本当なんだろうと、よく考えています。

勿論その答えはあちらの世界へ行かないとわからないと思いますが……（笑）僕自身は、具体的なものを求める時期がずっとありましたが、いろんな方にお会いしたりしていくうちに、自分の使命が明確になっていきました。そんな中、自分の楽曲を歌い続ける事も勿論なんです、それ以外に具体的な活動として、何かを立ち上げたいという思いが五、



六年前から出てきました。それが「鎮守の杜コンサート」でした。この頃から、子供たちを扱う団体への協力や、最近はおスニアヘルツェゴビナの大きなチャリティーコンサートにも参加しました。一番のきっかけは阪神・淡路大震災です。自分の中にある、なにか大きなもののスイッチが入ったんです。当時は、企画書を書きまくりました。ミュージシャンや

芸術家には何が出来たのか、考
える日々が続きました。

百パーセントチャリティで行う、
という気持ちで考えていましたの
で、とにかく、大きな効果をあげ
られるような企画書を作りました。
その当時、音楽業界の一線で企
画等をされている方々にご相談
をさせていただいたところ、実現
はしませんでしたが大変な評価と
ご理解をいただきました。このよ

うなことが、この「鎮守の杜コン
サート」のスタートでした。

その後、いろいろと活動を考
えているうちに、所謂、物理的
な環境問題に取り組むにしても、
都会の中でも自然を感じられる
唯一の場所、何か精神的に感じ
られる空間である「神社」とい
う場所をお借りしてコンサートを
行おう、という考えにたどりつい
たのです。



五、鎮守の杜・自然に感謝

神社の境内をお借りして、お
祭りのようなコンサートを行いま
す。鎮守の森に人が集まること
で、神社が持っている精神を感
じていただくことは勿論出来ます。
また、何か意味があって神社が
あり、神様が祀られているわけ
ですから、その意味も含めて自然
を身近に感じ、さらに自然の豊
かさや大自然への感謝を実感し
ていただける。お祭りというエン
ターテインメント性の中で、プラス
のエネルギーを持って帰っていた
だけのよう、そういうことが出
来ないものか、そういう信念の元
に開催しました。最初の頃は、
まずは自分が出来る事からと思
い、一人で色々な神社へお話を
させていただきました。そうやっ
てコンサートを始めたのが丁度五
年前になります。

庁長 神社でもお寺でも、この

森が随分、戦争によって荒廃し
てしまいました。それといろんな
御神木なども供出してしまった
時代もありました。戦後になって
植栽をしてきたわけですが、やは
り杉や檜のような木々が多く植
えられて、落葉樹はあまり植えま
せんでした。ですからバランスの
良い森が形成されていないのが状
況ですね。

海の近くでも、森と漁業に大き
な影響があるという話もよく聞
きますね。自然界というのは、
一体化されているという事がわか
りますね。それが人間の開発など
によって、バランスが壊れてしま
うのは悲しい事です。

ただ、そういう面では我々の
神社界は非常に森を大事にしま
すし、他の分野とは全然違うか
もしれませんね。

原田さんが早くから森の存在に
目を向けて下さっていたのは、大

変ありがたいと思います。

原田 いいえ。恐れ入ります。

六、神社でのコンサート

庁長 最近、明治神宮や各地の神社でコンサートを開催しているようですが…

原田 はい。最初は、日本の南から北へ向かって行おうと思っていましたので、初めは西表島でスタートしました。西表島には神社という形では存在していませんが、海の神様を祀るということからすれば、これ以上の場所はありませんように思います。たまたま「倉本總」さんの「マングローブの森を復活させよう」という会があり、その会とご一緒させていただき、最初のコンサートを開催する事が出来ました。その後には、熊本の幣立神宮へいだてじんぐうという大変古くから歴史のある神社で開催しました。僕も詳しいことはわかりませんが、



ここにはユダヤの石と言われているものがあり、非常に神秘的謂われのある神社でした。そして、その年の夏の終わり頃に明治神宮で開催しました。明治神宮でもコンサートは初めてだったようです。

その後、お伊勢さまでも二度ほど開催させていただく事が出来ました。神宮では、能舞台をお借りして開催させていただきました

た。さすがにいつもの「鎮守の杜コンサート」とは違っていました。庁長 ほう。それはどのような感じでしたか。

原田 ええ。能舞台でコンサートをを行うということは、ご奉納を目的としているわけですから、宣伝は控えましたが、チャリティーコンサートといえども、ご覧になっていた皆さんには無料で行いました。

一回目の時は、大雨になってしまいました。始まるや否やすごい雨になり、ステージの上に屋根はあったのですが、お客さんとの間に雨垂れがすごくて、こちらの音が届かないのでは？と思うほどの集中豪雨でした。

水っていうのは所謂「神様」と「地上」を繋ぐ意味をなすものなのだと聞いたことがあって、これはきっと神様が、雨をお降らしになっているのだなぁと感じながらコンサートが続けていました。

この時に面白いエピソードがあるのですが、和風な楽曲で、「愛してかんからりん」というタイトルの曲の際に、「あなたの心をなりたい」という歌詞があり、ちょうどそのフレーズを歌った瞬間に、目の前に稲妻とともに物凄い音で雷が落ちたんです。(笑) 驚いたというより、会場にいた皆さんも神様の存在を感じたと思います。僕自身も鳥肌がたつような貴重な経験をしました。その後も、不思議な体験は幾つかしております。

七、地域が一体となって

「鎮守の杜コンサート」は、初めは僕一人、もしくは本当に少ない人数で動いていたのですが、一昨年の岐阜県護国神社で開催した時から、もう少し規模を大きくして開催することになりました。神社という素晴らしい舞台

を使わせていただいて、照明やレ-

ザーを使って、さらに幻想的な世界を作り出してみようと思ったのです。同時に地元の伝統芸能

の方や子供たちのコーラスなどが入り、実行委員会を組織していただき、一緒に手作りで作り上げました。多くの方々に協力していただくことにより、地域の拡がりや繋がりもより固くなり、次の開催地へバトンを渡していただけるような、大きな流れが生まれました。

現在では、開催地の方々とさらに一体となって執り行っており、終わってからのうちあげも非常に賑やかで、達成感に溢れております。これからも継続して大きな成果をあげていけると感じられる

状況です。

庁長 今まで色々な神社で開催していますけど、各社の対応はいかがですか。

原田 はい。それはもう各社で全然違います。鎮守の森で開催出来るということの一番は、お宮さんの神域を解放していただき、社殿をバックに歌えることです。これが大変すばらしいことだと思います。各社のその地域でのあり方によってもコンサートの雰囲気はだいぶ違ってきます。

八、環境問題とは

神社でのコンサートの一番のテーマは、環境問題について考えることだと思っています。

じんぐうたいま 神宮大麻をおまつりしましょう



環境問題を考えるにあたり、大事なことは人間が行動を起こす前に、環境について考える心を持つこと。人の心の中に、周りを大切にしようとか、共存しようとか、自然に感謝するとか、親が子を愛するとか、こういう思いが失われ、置き去りにされつつあることが大きな問題なのかと思います。



日本の文化の中には、自然に感謝する気持ちがあります。

共同でお祭りを営み、共存してきたわけですから、その素晴らしい文化を受け継いで行くことが大事なのではないでしょうか？

今、日本人に欠けている「やさしい気持ち」は、神社の精神にたっぷり入っています。神社でのコンサートを通じて、人がやさしくなればと思います。

「鎮守の杜コンサート」では、笑いあり興奮ありで楽しいものなのですが、今後とも趣向を凝らしてもっとパワーアップしたいと思っています。

庁長 お祭りは、社会教育のひとつの場でもあると思います。最近では、親が自分の子供の躰もままならない状況なので、神社に集い、お祭りを体験したり、原田さんの歌を聴いて神さまを

感じて、将来を担ってもらえたらと願っております。

原田 そういう意味では、大神さまのエネルギーが必ずあると思います。日本はそういう神秘的な力をもった国だということを実感しています。僕も、「鎮守の杜コンサート」で神様に触れさせていただいていると思います。

九、メディアも原点に…

自分もどちらかといえば、メディア側かと思いますが、最近特に感じるのは、情報の乱立や恐ろしいくらいの情報の流れ方ですね。メディア側も反省をして原点に立ち返り、今一度、本当の情報の伝え方を考える時期にきているのではないかと思います。

僕は、神社で行っている「鎮守の杜コンサート」がより多くのメディアで取り上げられて、この精神をもっと多くの人々に伝え

ることが出来たら非常に幸せで、明るい未来が期待出来ると思っています。神道が素晴らしいのは、自然の全てのものに神々の存在を感じることができることです。

僕は、世界中でもこの考えは理解してもらえと思っています。今後の目標として、世界中でコンサートを開催したいと思っています。

実は先日、フランスのカンヌで日仏国際芸術祭があり、そのオーブニングセレモニーでコンサートを開催させていただきました。そこで、「八丈太鼓」をやっている若い男性二人と一緒に演奏をしたのですが、非常に盛り上がって日本文化をアピールする絶好の機会となりました。大変な手応えを実感する事が出来ました。

庁長 最後になりますが、我々、栃木県の神社界でも鎮守の森の大切さというものを、ホームページ等を通じて、社会に訴えております。森の開発とか色々

な問題によりまして、鎮守の森が、失われていくような現状があるわけですが、我々の祖先が、守ってきた財産ですから今後もこれを守って行くような活躍を期待しております。それが、青少年の育成にも繋がることだと思います。「鎮守の杜コンサート」が更に盛大に、尚且つ、末永く開催されますことをご期待申し上げます。

原田 はい。ありがとうございます。是非、世界遺産でもある日光でも開催が実現できればと思います。その節は、よろしくご協力をお願いします。

庁長 はい。日本縦断のこのようなコンサートを開催していただいて、氏神さまと氏子の絆がしっ

かり繋がれば、大変ありがたいと思っております。原田さんが、随分前から鎮守の森に目を向けていたことに我々も心強く感じております。今後一層、神社界が「癒しの場」となるような活動をしていただきたいと思います。

長時間にわたりまして、ありがたいお話をいただきまして、ありがとうございます。これにて対談を閉じさせていただきます。

(平成十六年八月十二日)

東京 神田神社にて

この対談に際し、快く会場をご提供くださいました神田神社大鳥居宮司様、当日お世話下さいました戸部様を始め関係職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

かみ だな 神棚をおまつりしましょう

